

三鷹市教育委員会 様

学園・学校名 鷹南学園三鷹市立第五中学校

校長名 鶴崎 靖二

令和6年度教育課程について(届)

このことについて、三鷹市立学校の管理運営に関する規則に基づき、下記のとおりお届けします。

記

## 1 学園の教育目標

### (1) 学園の教育目標

- ◎ 自ら課題を見つけ学び、考え、解決する人 (重点)
- 自ら心身の健康を保ち、進んで行動する人
- 自分や相手を大切にし、優しさを広げる人
- 地域の一員としての自覚をもち、国際社会に目を向ける人

学園の目標を達成させるためには、児童・生徒自身が行動や学びを自己調整することが求められる。必要な資質・能力を「自己調整力」とし、令和6年度は、各校における児童・生徒の課題に応じ育成に取り組んでいくものとする。

### (2) 学園の教育目標を達成するための基本方針

学園の重点目標を、「自ら課題を見つけ学び、考え、解決する人」とし、次の4点に重点をおき、学園の教育目標の達成を図る。鷹南学園の強みを生かした小・小連携及び小・中連携、そして地域と連携した学びを通し、「自分で自分の力を伸ばす、みんなが楽しい生活を築く」ことを大切にしながら人間力と社会力を育成する。誰一人取り残すことなく、将来自ら幸せな人生を切り拓いていけるための土台作りとなる資質・能力を児童・生徒に身に付けさせるとともに、学校に関わる全ての人のウェルビーイングの実現を目指し、学園としての一体感をもった取組と各校の特色を生かした教育活動を行う。保護者・地域社会が学園の教育理念を共有し連携・協力しながら、「社会に開かれた教育課程」の実現を図り、より良い学校・よりよい地域づくりを目指す。そのためには、すべての教育活動においてカリキュラム・マネジメントの充実を図りながら学園の教育の質の向上を目指す。

- 子どもたち一人ひとりが大切にされる教育 (安心できる居場所となる学園・学校づくり)
- 個別最適な学び・協働的な学びの一体的な充実 (「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善)
- 多様な他者との学び (学びの広がり・多様なコミュニケーション・社会性と主体性の育成)
- スクール・コミュニティの創造 (地域をつなぐ拠点となる学校づくり)

#### ア 自ら課題を見つけ学び、考え、解決する人 (重点)

##### (ア) 確かな学力の向上

- ・ これまでの学園研究の成果や・第五中学校の東京都授業改善推進拠点校としての研究成果を活用し、学園生全体の学力向上を目指す。
- ・ 学園研究を通し、各教科・領域の見方・考え方を十分に働かせながら、主体的・対話的で深い学びと協働的な学びの一体的な充実の実現を図る。
- ・ 全ての児童・生徒に確かな学力を身に付けさせるため、特性や学習進度、学習到達度に応じた指導の個別化、興味・関心やキャリア形成の方向に応じた学習の個性化を図る。(学習用タブレット端末・地域未来塾・学習支援ボランティア・地域人材・地域資源の活用)
- ・ 3校の教員が日常的に授業を参観し合い授業改善に取り組む、持続可能な学園研究を実施する。
- ・ 各種調査結果から児童・生徒一人ひとりの課題を明らかにし、課題解決に向けた教員の指導の工夫と児童・生徒の学園生の資質・能力を高める。

(イ) だれ一人取り残さない一人ひとりを大切にする教育の実現

- ・ 三鷹市小・中一貫カリキュラム（更新版）の活用を図り、ユニバーサルデザインの考えを重視するとともに、小・中相互乗り入れ授業（国語・美術・教育支援）を活用し分かりやすい授業づくりを推進する。
- ・ 教育支援の充実を図るために、学園合同の特別支援研修を実施するとともに、小・中連携し児童・生徒の情報を共有しながら、「三鷹市教育支援プラン2022（第2次改定）」を基に、一人ひとりの児童・生徒の課題に応じた支援を行う。
- ・ 小学校6年生が中学校生活を円滑に始められるよう、3校の教員が十分な情報を共有する。
- ・ 不登校児童・生徒に対し、関係機関と連携し改善に向けた対応をするとともに、オンラインによる授業など、学習用タブレット端末を活用した学習保障を行う。

(ウ) 自己調整力の育成

- ・ 自分の力やよさを最大限に発揮し、自らよりよい行動（学習も含めた生活全般）ができるようにする。そのために、児童・生徒が主体的に学習に向かうための動機づけを大切にし、自ら目標をもって学習に取り組めるようにするとともに、学習方法を自ら選択できるようにする。キャリア・パスポートも活用しながら自分のよさや、できるようになったことに気付かせ、自己の行動や学習・感情などをコントロールし、主体的に学校生活を送れるようにする。

イ 自分や相手を大切にし、優しさを広げる人

(ア) 人権意識の向上

- ・ 児童・生徒が大切にされ安心できる環境の中で、多様な個性を尊重し自分も相手も大切にしながら、よりよく生きようとする態度、規範意識や義務・責任を果たそうとする態度を育てるとともに、いじめやネットモラルに関する正しい知識をもち、豊かな人権感覚、思いやりの心を育てる。

(イ) 道徳性の向上

- ・ 家庭・地域と連携した全教育活動を通して、「特別の教科 道徳」の授業を充実させ、意図的・計画的に道徳性を養う。公共心や規範意識などの社会性を育むとともに、いじめに関する問題を多面的・多角的にとらえ自分ごととして考えられるようにする。

ウ 自ら心身の健康を保ち、進んで行動する人

- ・ 東京都児童・生徒の体力調査の結果を踏まえ、学園の担当者等で学園・学校の課題を重点化し、体育の授業や体育的行事、日常的な取組を通じた体力向上について、実践・評価・改善を行う。小学校においては中学校体育科教員の専門的な指導を活用し、授業力を向上させる。
- ・ 家庭や地域と連携したり、休み時間や部活動、放課後の活動において運動に親しんだりし、運動をする習慣や意欲を高める。
- ・ 生活習慣の向上や心身の健康に向け自己管理に努めるとともに、心の不安や悩みに対処したり SOS を発信したりすることができる、心身ともに健康な児童・生徒を育てる。
- ・ オリンピック・パラリンピック教育のレガシーを生かした学習を行い、スポーツへの関心や豊かな心を育てるとともに、ボランティアマインド・障がい者理解・豊かな国際感覚を養う。

エ 地域の一員としての自覚をもち、国際社会に目を向ける人

- ・ 地域社会における多様な他者との交流を通し、地域の一員として自分にできることを考え、実行しようとする態度を育てる。
- ・ 児童・生徒が主体となり学園・学校をより良くするために熟議等を行い、当事者意識や社会参画意識を養うとともに、鷹南学園の一員であることを誇りに思えるようにする。
- ・ 広い視野をもって国際社会に目を向け、異文化を理解し尊重する態度や共に生きていく力を育成するとともに、相手の立場を尊重しながら自分の考えなどを表現できる外国語能力の基礎や表現力等のコミュニケーション能力を育成する。

(3) コミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育としての重点

ア コミュニティ・スクール委員会と協働し、児童・生徒が多様で豊かな体験活動を通し社会力・人間力を育むために学校3部制の第2部・第3部と連携して地域社会の協力を得たり、学園版カリキュラムを活用し地域人財を活用したりしながら、教育活動の充実を図る。

イ 学園運営委員会及び学園管理職会、学園研究会、小学校の同一学年間において、教職員が連携・協働するとともに、それぞれの役割を最大限に発揮することで学園をチームとして機能させ、児童・生徒のよりよい育ちに向けた学園づくりを行う。

ウ コミュニティ・スクール委員会をはじめ地域の大人と、また児童・生徒間同士による協働的な学びを通し、多様なものの見方を育てたり、よりよい人間関係づくりをしたりしながら「主体的・対話的で深い学び」の実現を目

指す。

エ 鷹南学園合同行事（学園引き渡し訓練、学園集会、きょうだい学年交流、小6合唱交流（仮称）、児童・生徒会交流、小5中学校体験、あいさつ運動）及び地域行事を通じて、学園の児童・生徒及び教職員、コミュニティ・スクール委員会、地域・保護者が協働することで、地域がつながるとともに、児童・生徒のより良い環境づくりとなるスクール・コミュニティの実現を目指す。

オ 小学校 6 年生における学園合同自然教室の実施に向け、1年生から段階的な小・小交流を教科横断的な視点と柔軟な発想で計画・実施する。

カ 学園交流が単なる交流で終わるのではなく、児童・生徒それぞれが成長する機会となるよう、年間計画の評価・改善を行う。

## 2 教育目標

## (1) 学校の教育目標

平和的な国際社会の実現に貢献できる人間の基礎的な素養を育てるとともに自ら主体的にたくましく生き抜く生徒の育成を願って、次の目標を設定する。

- 一、進んで考える人
- 一、情操豊かな人
- 一、心身ともに健康な人

## (2) 学校の教育目標を達成するための基本方針

## ア 学校の教育目標を受け、学校で重点的に育む資質・能力の育成

学校教育目標の「国際社会の実現に貢献できる人間の基礎的な素養（人間力）」と「主体的にたくましく生き抜く力（社会力）」を重点的に育成する。

## イ 学校教育目標の地域との共有及び連携・協働

地域の人財育成という考えを念頭に学園・学校が地域の拠点となるスクール・コミュニティの形成を図りながら、ボランティア活動や地域行事への参加を応援し、保護者や地域、関係団体等との関わりを通して「主体的に考え、行動する力」「人間力・社会力」を育む。

## ウ 教育目標の具現化のための基本方針

## (ア) 生徒の人間力・社会力の育成

- ・生徒が自ら考え、判断する過程を尊重し、生徒が自ら伸ばす力を引き出す教育を推進する。
- ・小学校の行事、CS 行事、地域行事等への積極的な参加を促し、「地域の一員」という意識の向上を図る。
- ・自己のよさや考えを伝えるとともに他者のよさや考えも認め、よりよい学園・学校そして地域を作っていくとする気持ちの醸成を図る。
- ・保護者・地域・卒業生と連携したキャリア教育を推進することで、生徒が自己理解を進め、自分のよさと役割を自覚し、前向きに考え、行動しようとする姿勢を培う。
- ・オリンピック・パラリンピック教育で取り組んだことを活かして、スポーツへの興味・関心を醸成し、フェアプレーやチームワークの大切さを礎として、最後まであきらめない精神を養う。
- ・栄養士と連携し、養護教諭と保健体育科・家庭科を中心に食育の取組を充実することで、生徒自身や家族等の健康を考えようとする姿勢を培う。
- ・安全教育・防災（減災）教育についての知識の習得とその知識をどの場面で、どのように活用するのか考え、判断し、行動できる学習場面を設定することで、主体的に地域の一員として働きかけをしようとする心情を養う。

## (イ) 「カリキュラム・マネジメント」の実施（「三鷹市小・中一貫カリキュラム」の活用及び「学園版カリキュラム」の活用及び評価・改善）

- ・三鷹市小・中一貫カリキュラムの活用及び鷹南版小・中一貫カリキュラムを活用し、学園研究を活用しながら、各教科等の指導の改善・充実を図り、義務教育9年間の学びの保障に努めるとともに、家庭と連携した学習習慣の定着を図る。
- ・総合的な学習の時間を本校のカリキュラム・マネジメントの軸とし、社会・理科・保健体育・音楽・美術などの教科等で得た知識を教科横断的な学習として位置付けたり、地域社会で実際に活用したりする場面を展開することで、スクール・コミュニティの理念を具現化する。

## (ウ) 確かな学力の育成

- ・全教科等において改訂版鷹南スタンダードを徹底することで、基礎学力と学びに向かう姿勢を定着させる。
- ・学習ボードや学習用タブレット端末を活用し、対話的な学び、協働的な学び、個別最適な学びを通して、「生徒が自らの学びを計画し実践できる」ように、見通しをもって粘り強く取り組む力、課題解決する力、ICTを活用した情報活用能力を育成する。
- ・主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善～指導と評価の一体化の実現のために、各教科で研究的視点をもって授業改善に取り組み、生徒の学力向上を図る。

## (エ) 豊かな心の醸成

- ・自他の生命と人権を尊重する生徒の育成に向けて、生命尊重・人権尊重の精神に基づき、全教育活動を通じて、人権教育・道徳教育の更なる充実を図ることで、情操豊かな生徒を育成するとともに教師・児童・生徒が一体となっていじめが起らない環境を整えていく。

- ・「特別の教科 道徳」と他教科等との関連を図り、道徳性を涵養し、生徒自らが人権問題、情報モラル等、今日的な課題を解決しようとする力を養う。
- (オ) 体育、健康に関する活動及び健全育成
  - ・東京都児童・生徒の体力調査の結果を踏まえ、学園の担当者等で学園・学校の課題を明確にして重点化を図り、実践・評価・改善を行う。
  - ・保健体育科の授業を中心に発達段階や生徒の体力、技能の程度に応じた運動量や運動内容にすることで、心身を鍛え、健康を維持しようとする態度を育成する。
- (カ) 「三鷹市立学校 小・中一貫教育の推進に係る実施方針」を踏まえた小・中一貫教育に関する教育課題への対応
  - ・日常的に学園全体の教師と教師、教師と児童・生徒が関わり、信頼関係を深めていくことで、生徒が議論し、自らの生き方を考えていく姿勢を醸成する。
  - ・国語、理科（小学校）および数学（中学校）を中心に乗り入れ授業は单元ごとにねらいと指導法及び評価について確認し実施することで、系統的な指導を行い、つまづきへの対応を図る。
  - ・学園の養護教諭、栄養士等が児童・生徒の健康に関わる情報を共有し、発達段階に応じた栄養指導等を行う。
- (キ) 「チームとしての学園・学校」の推進（学校運営組織の改善（学園の教職員の協働及び働き方改革））
  - ・学園三校の情報共有を密にし、発達段階に応じた関係機関等とも連携した教育支援を行うことで、一人ひとりの特性を捉え、個性の伸長を図るとともに学力向上、授業改善を図っていく。
  - ・学園研究会・研修会を中心に、めざす15歳の姿の具体的な姿を明らかにし、その具現化に向け指導・支援の充実を図る。
  - ・「みたか地域未来塾」の学習支援員に地域の方や大学生を活用したり、学校支援ボランティアを活用したりするなど、地域との共有および連携を図り、学校教育を社会と共同しながら実現させる。
- (ク) 育成を目指す資質・能力の共有及び連携・協働
  - ・保護者・地域と連携したキャリア教育を推進することで、生徒が自己理解を進め、自分のよさと役割を自覚し、前向きに考え、行動しようとする姿勢を培う。
  - ・小学校、保護者・地域と連携し、いじめの未然防止、早期発見を図り、いじめ発生時の丁寧な指導を徹底するとともに、生徒にとって相談しやすい言語環境を整える。
  - ・GIGA スクール構想に基づき、保護者・地域と連携して、デジタル・シティズンシップ教育を行う。

### 3 指導の重点

#### (1) 各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動

##### ア 各教科

- (ア) 「三鷹市小・中一貫カリキュラム(更新版)」を教員に周知・活用し、学習指導要領に示されている各教科の「見方・考え方」を働かせ、各教科の個別・具体的な対象にアプローチした思考力・判断力・表現力や学びに向かう力・人間力を培う。国、都、市の学力テスト等の分析結果を活用するとともに、「三鷹『学び』のスタンダード」「改訂版鷹南スタンダード」を徹底し、学習規律および学習習慣の定着を図る。
- (イ) 小・中一貫教育校として、1回1回の授業における目標、展開、まとめ、ふりかえりの流れの中で、主体的・対話的で深い学びを追究する過程を設定し、知識・技能の確実な習得、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度を養う。
- (ウ) 「『三鷹学びのスタンダード』(家庭版)」「鷹南スタンダード」を活かし、家庭学習を支援する。個別最適化の考えの下、計画的な家庭学習の助言形態やノート指導の工夫、学習ボード、学習用タブレット端末、eライブラリを活用した個別最適な学び、協働的な学び、家庭学習の充実を図る。
- (エ) 「東京方式都 習熟度別ガイドライン」(数学)、「東京方式 少人数・習熟度ガイドライン」(英語)に則った数学、外国語(英語)での少人数・習熟度別授業を実施し、指導方法を工夫改善して、学習効果を高め、確かな学力を育成する。
- (オ) 「相互乗り入れ授業」のねらいに基づき指導を小学校の国語・美術・教育支援、中学校の数学を中心に各教科で実践し、小・中相互に関わる指導の充実を図るとともに、単元・領域や発達段階に応じたきめ細やかな指導・支援を実践する。
- (カ) 学習指導要領のねらいを踏まえた「わかりやすい授業」や「主体的・対話的で深い学び」および生徒の資質・能力が確実に定着されるための「評価」の在り方について校内研究を継続する。
- (キ) ICTと学習用タブレット端末を活用した個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図り、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫・改善を推進する。
- (ク) 特別の教科 道徳を中心に他者を思いやる心、公共の精神を育成し、ネットリテラシー教育、ネットモラル教育を推進する。これによりデジタル・シティズンシップの精神を涵養する。
- (ケ) 全国学力調査、全国体力・運動能力調査等の調査結果を基に、問題点を明らかにし、課題を設定していく。令和6年度では、
- ・授業のユニバーサルデザイン化の推進、個別最適化の学びの実現《知》
  - ・公共心と他者の立場に立って考える思いやりの心の醸成《徳》
  - ・健康的で柔軟な身体の育成《体》
- を課題として設定する。

##### イ 道徳

道徳科では、教科書を主たる教材として使用し、「考え、議論する道徳」の授業を行い、他教科、学校行事等を意図的に連携させ全教育活動において横断的に道徳教育を推進する。

- (ア) 特別の教科 道徳を要とした主体的に「考え、議論する道徳」の深まりと実践力を追求するために、毎週、学年ごとプチ研究会を設定し、教科書や資料の読みこみ、発問、評価等について全教員で研究したうえで、実践をする。
- (イ) 「道徳授業地区公開講座」等の機会を活用して、保護者・地域との道徳授業についての振り返り熟議を行い、道徳授業の在り方、生徒の実態等について発信・協議していく。
- (ウ) 「命の大切さ」「他者への思いやりの心」「公共心」「人権」等について、道徳教育を要として生徒の心を耕し、いじめを生み出さない、許さない土壌を作る。

##### ウ 外国語・英語教育

- (ア) 学習指導要領の趣旨及び「三鷹市小・中一貫カリキュラム(更新版)」「学園版カリキュラム」を基に、年間指導計画の改善・充実を図る。学園の小学校と連携し、小・中一貫の視点から系統性を意識した指導を展開する。
- (イ) ALT配置の意義に則り、効果的に活用する場面を設定し、「話すこと」「聞くこと」の力を伸ばし、生徒が主体的に英語を使おうとする意欲を向上させる。
- (ウ) 乗り入れ授業や学園研究を通して外国語・英語教育の小中の系統的な指導の実現を図る。英語科の授業で身付けた力を活用し、自らすすんで英語を使いコミュニケーションをとる場面を設定する。

## エ 総合的な学習の時間

- (ア) 長期休業中を活用して、キャリア教育を中心として、生徒が主体的に課題を設定し、取り組ませることにより、生徒の創意を引き出し、自ら考え、行動する力を育成する。
- (イ) 総合的な学習の時間を本校のカリキュラム・マネジメントの軸とし、各教科等で身に付けた知識・技能を活用する学習活動を充実させ、自国の伝統文化理解、国際理解を深める。新聞等を活用した授業を設定し、情報を比較・検討する力、判断力、批判力、思考力、表現力を高め、自己の生活にそれらの力を活用していく態度を育てる。校庭・屋上芝生化、コンポストを教育資源とし、環境教育に対する意識の醸成と知識・技能を身に付け、さらに学習した内容を基に社会に発信していく力を養う。
- (ウ) 小・中一貫協力校の取組を踏まえ、キャリア・アントレプレナーシップ教育と「地域学習」及び「生き方学習」と関連付け、人間力・社会力の育成を図るとともに、CS委員会やPTA、おやじの会等、地域人財を活用した体験的な活動の充実を図る。
- (エ) 地域人財や地域団体を積極的に活用して、キャリア教育やキャリア・アントレプレナーシップ教育を推進する。

## オ 特別活動

- (ア) 学級経営の充実のために年間指導計画に基づき、学級での係活動の充実や生徒会による委員会活動を活性化させるために、生徒一人ひとりの意見を学校が吸い上げる。生徒が議論や提案をしあう過程から協調性・実践力及び責任感を身に付け、社会の一員として主体的に活動できる社会人としての基礎的な能力や総合的な能力を育む。
- (イ) 学校生活への適応や人間関係の育成、進路の選択などについて集団の場面での指導や主に担任が行う進路相談を充実させる。また、スクールカウンセラーと連携して行う、1年生の集団面接の実施や個別の相談などを通じてガイダンス機能の充実を図る。新入生への生徒会、専門委員会、部活動の紹介等を行う新入生歓迎会を生徒会や部長を中心に計画させ、新入生へのガイダンスとして設定する。
- (ウ) 生徒が自ら集団の課題と向き合い、その解決のための方策を考える機会を設定する。特に、校則の見直し、学校行事におけるルール作りでは、生徒が協議に参加する場面を設定する。また、学園のあいさつ運動、児童・生徒会交流を通し、生徒の主体的かつ自治的な活動の充実を図る。
- (エ) 「SOSの出し方に関する教育」に係るDVD教材等を活用した授業を全学年それぞれ1単位以上時間年間指導計画に位置付ける。
- (オ) 小・中連携して「キャリア・パスポート」を活用した進路指導を行い、中学校進学時、高等学校進学時には「キャリア・パスポート」を引き継ぐ。

## (2) 特色ある教育活動

- ア 第3学年の卒業期に「命の教育」を地域と連携し、地域の親子や助産師等を授業協力者として招聘し、自他と命と心を大切にす気持の醸成を図り、卒業後の行動につながるような授業を実施する。学生ボランティアによる個別最適な学びに向けた放課後個別学習を実施する。
- イ 「すべての生徒が安心して楽しく通える学校」となるよう、児童会や生徒会を主体としたあいさつ運動の実施、ボランティア活動の企画・運営を実施する。
- ウ 地域を担う一員である意識を醸成するために、普通救命講習会を第1学年で実施し、地域防災訓練等を第2学年で実施し、地域行事・ボランティア等への参加も推進する。家庭科の授業の一環として第2学年を中心とした献立コンクールを実施し、知識と技能を実生活に生かし、学校教育と家庭との連携を図り、男女参画意識の醸成を図ることをねらいに取組を継続する。第1学年では「アルコールについて」、第2学年では「喫煙について」、「がん教育」、第3学年では「薬物について」について講師を招聘し、専門的な知識をえるとともに、各教科等の知識・技能を活用し自らの健康、家族等の健康を考える学習の機会を計画的に設定する。
- エ 1年社会科の授業において、生涯学習課や地域の方々を講師に招き、「市立第五中学校遺跡」講演会を行い、本校の敷地内から発掘され、遺跡調査から明らかになった縄文時代の様子や縄文文化についての理解を深める。

## (3) 生活指導・進路指導

## ア 生活指導

- (ア) 改訂版「鷹南スタンダード〈み・そ・あ・じ・言〉」の徹底を図り、規範意識の醸成を図る。特に今年度はSNSを介するトラブルに対する学習の充実を図る。生徒の様子を積極的に発信し、保護者・地域との共通認識のもと、生徒の自己肯定感・自己有用感を高める。校内委員会を毎週実施し、ASSESSやSCや巡回発達相談員からの専門的な助言を受け、一人ひとりの特性に踏まえつつ、社会人となることを視野に入れた指導・支援を行う。

- (イ) 「三鷹市いじめ防止対策推進基本方針」と「五中いじめ防止基本方針」に基づき、「いじめは絶対許さない」ことを保護者・地域との共通認識の下、いじめに関わる取組・対応を行う。また、日常的に生徒と関わり、些細な変化に気づき、対応する組織的を構築する。人権教育を推進し、教員と生徒との人間関係を築き、いじめ・不登校等問題行動の未然防止につなげる。オリンピック・パラリンピック教育のレガシーとして、校内及び地域ボランティア活動や交流活動を通して「ボランティア・マインド」や「障がい者理解」の充実を図る。
  - (ウ) 義務教育9年間の発達段階に応じた教育支援の在り方について小学校と連携し研修を実施する。
  - (エ) 安全教育プログラムを積極的に活用し、セーフティ教室、不審者対応訓練など体験的な学習に関わらせながら、自ら危険を予測し回避できる能力と、他者や社会の安全に貢献できる資質や能力を育てる。
  - (オ) 「SOSの出し方に関する教育」、自殺予防教育推進委員会によるDVD教材等を使った授業を全学年に実施する。
  - (カ) 長期欠席傾向の生徒の対応として登校支援シートを活用するとともに適応支援教室A-Roomを含めた関係機関と連携することで、本人・保護者との信頼関係を構築し、個に応じた登校支援を図る。
  - (キ) 生徒会活動や校則の見直しなど、生徒の学校生活に関わる場面において、全生徒の意見を吸い上げ、協議する場面を設ける。
- イ 生き方・進路指導
- (ア) 望ましい勤労観・社会参画意識を育むために、キャリア・アントレプレナーシップ教育の視点を取り入れながら、保護者・地域と連携し第1学年では「職業調べ」、第2学年では「防災訓練」「上級学校調べ」「職場体験」「献立コンクール」、第3学年では「上級学校訪問」「命の教育」「花いっぱい運動」を実施する。
  - (イ) 小・中一貫教育と関連した9年間の一貫性・継続性のあるキャリア教育・キャリア・アントレプレナーシップ教育を系統立てて展開する。校外学習・修学旅行の事前学習・事後学習に位置付ける。
  - (ウ) 全教育活動を通じて各教科等と関連させながら、他者の生き方に触れ自己の生き方を考える学習を充実する。
  - (エ) 1学年で「職業調べ学習」、2学年で「職場体験学習」、3学年で「上級学校訪問学習」を実施する。
- (4) 教育支援
- ア 「三鷹市教育プラン2022」（第2次改訂）を踏まえ策定した教育相談運営指針に従って教育支援を進める。
  - イ ユニバーサルデザインの考え方にに基づき、教室環境を整えるとともに、一人一台の学習用タブレット端末も活用した「わかる授業」の充実とそれぞれのニーズに適切な指導と支援の充実を図る。
  - ウ 週一回、校内委員会を実施し、その際校内通級教室との連携も重視しながら教育支援の要となり、生徒一人ひとりの特性を踏まえた支援を検討し、個別の支援を構築し、実施後、確実に評価・改善を行う。
  - エ 生徒・保護者の願いを基に、個別指導計画、個別の教育支援計画を作成し、関係諸機関等と連携した指導・支援を充実する。
  - オ 「心のバリアフリー」の考えの下、教育支援について理解・啓発を図り、個々の特性に応じた指導・支援を行う。生徒の状況を踏まえたうえで支援学級と通常の学級の交流を充実させ、相互理解を深める。副籍交流では教育支援Coを中心に支援学校との連絡・調整を図り、学校全体で組織的に交流を行う。
  - カ 校内通級教室において拠点校及び巡回校教員との連携を図り、障がいによる学習上又は生活上の困難の改善又は克服を目的とし、生徒一人ひとりの特性を踏まえた指導計画の下、集団適応能力の伸長を図る。
- (5) 体力・運動能力向上
- ア 生徒の体力の向上のため「一校一取組」として、生徒が主体的に考えるスポーツや体育的行事を設定する。
  - イ オリンピック・パラリンピック2020教育のレガシーとして、保健体育の授業及び体育大会にフラッグを用いた集団演技を取り入れ、体力の向上を図る。
  - ウ 全国体力・運動能力、運動習慣調査の結果分析に基づき、保健体育科の指導内容を設定し、興味・関心を高め、個々の体力・運動能力の向上を図る。特に、柔軟性の向上を目指す。
- (6) その他
- ア 鷹南学園の児童・生徒の実態を踏まえた指導・指導の充実が図られるよう、各種調査等を基に学園・学校研究・研修を設定し、教員の指導力の向上を図る。
  - イ 学園の生活指導方針に基づき、小・中の系統的な指導連絡体制を構築し、PTA、コミュニティ・スクール委員会サポート部、おやじの会とも連携しながら、生徒の地域の一員としての所属意識を育む。
  - ウ 「三鷹市小・中一貫カリキュラム(更新版)」の効果的な活用を進めるため、校内研修会も活用しながら協議を深めていく。